



校長室だより

「〇〇になる」でなく、「どんな〇〇になる」かが大事！



保護者の皆様や地域の皆様のご協力、全校児童の頑張りで、9月の運動会も大成功に終わりました。そして、気がつけば2学期も約半分が過ぎ、季節も「秋」真っ盛りとなっています。昨日の「校長講話」では、スポーツの秋にちなんで、イチロー選手にまつわる次のような話をしました。

『ぼくは将来一流のプロ野球選手になる』

～嫌いなことをやれと言われてやれる能力は、後で必ず生きてきます～

全校の皆さん、おはようございます。今日も気持ちよいあいさつが出来ましたね。さて、今日はこの人(イチローの写真を掲示)のお話です。イチロー選手の様々な逸話はいろいろなところで聴いているかと思いますが、今日はその中で私が心に残っている3つのお話をします。

イチロー選手が小学校の卒業文集に「将来の夢」として書いたことは何か知っている人いますか？そう、プロ野球選手ですね。有名なお話です。みなさんの中で将来、野球・サッカー・バスケットボールなどスポーツ選手になりたいと思っている人はどのくらいいますか？・・・沢山いますね。将来の夢を持つことはとても大切なことです。でも、イチロー選手が40歳を過ぎた今でも選手として活躍を続けられている本当の秘密が、実は小学校の卒業文集のある言葉にあったことはあまり知られていないのではないのでしょうか。みなさんは「将来の夢」というと、スポーツ選手、お医者さん、警察官、など



様々な仕事をあげてくるでしょう。それはそれでよいのですが、イチロー選手が書いた将来の夢は実は「プロ野球選手になる」ことではなかったのです。では何と書いたのか。イチロー選手は「ぼくは将来一流のプロ野球選手になる」と書いたのです。プロ野球選手になることが目的ではなく、一流のプロ野球選手になることが目的だったのです。プロ野球選手になること自体、大変難しい事なのですが、なることだけが目的だったら、その後にあれだけの活躍は出来ません。せっかくプロになっても活躍できずに引退してしまう選手も沢山います。そんな中でイチロー選手が活躍できたのは、小学校の時の「一流」の思いがずっと続いているからではないのでしょうか。プロになることが目的ではなく、どんなプロになるかを目的にしたからこそ、プロになってからも人並み以上に努力を積み重ねられたのだと思います。「何になる」ではなく「どの様な何になる」を目標にすることがとても大事だと言うことです。

2つ目のイチロー選手のエピソードで心に残っていることは、「嫌いなことをやれと言われてやる能力は、後で必ず生きてきます」という言葉です。練習の中には、得意なことばかりではなくて、苦手なものや嫌いな練習もあるけれど、やれと言われたことに取り組んでみると、今まで知らなかった楽しさに気づくことがあると言っています。皆さんも毎日の宿題やマラソンなど嫌いなこともあるかもしれませんが、それを続けることはきっと後になって生きて来ます。そして3つめ、イチロー選手はこうも言っています。「夢や目標を達成するには、ひとつしか方法はない。小さな事を積み重ねることです」2学期の始業式に「継続は力なり」の話をしました。2学期も約半分が過ぎた今、もう一度自分が毎日少しずつ頑張っていることを確かめましょう。11月8日にはマラソン大会もあります。歩きたくなる気持ちをぐっと我慢して明日から少しずつ走りましょう。

以上で今日のお話を終わります。

10月の校長室だよりは、2学期半ばになっても目標に向かって努力を継続してほしいと願い「イチロー選手」の話を載せました。「わか竹」のように昼も夜も少しずつ成長し、しなやかな「竹」の様に育つよう、教職員一丸となって取り組んで参ります。また、昨今巷で話題になっている「教職員の不祥事」が本校では絶対起きないように研修も続けております。保護者や地域の皆様の信頼に応えられるように、更なる子ども達の健やかな成長のために、2学期後半もご支援・ご協力よろしくお願い致します。

佐久市立岸野小学校

*ご意見、ご要望、お問い合わせなどは、下記までお寄せ下さい。

TEL 0267-62-0384

Fax 0267-62-0542

